

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会  
 事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2  
 北海道開拓記念館内  
 電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 第43回北海道博物館大会 (帯広大会)終わる

平成16年度北海道博物館大会は、7月8日(木)、7月9日(金)の両日、帯広市で開催された。

大会1日目は、帯広市の北海道ホテルを会場に、総会、シンポジウムなどが行われた。

総会では、平成16年度事業計画、予算案などが可決され、平成17年度大会の開催地が小樽市

に決定された。総会、表彰式の後、日本博物館協会専務理事五十嵐耕一氏の特別報告「日本博物館協会の主要事業と最近の動向」をもって、午前の部が終了した。午後は、大津・十勝川学会会長の君尹彦氏から「地域の形成—十勝における町村編成を例として—」と題して特別講演があり、続いて「開かれた博物館をめざして—地域との連携をさぐる—」をテーマに、シンポジウムが行われた。

2日目は、帯広百年記念館や北海道立帯広美術館などを見学し、全日程を終了した。

## 道博協ミュージアム・マネジメント研修会 10/7・8今金町で開催

本年度のミュージアム・マネジメント研修会が10月7日(木)～8日(金)の両日、今金町(町民センター)で開催されます。

地方の時代とうたわれながら、自治体における財政力や地域経済の低下、さらには合併問題などもあり、館・園自体の存続の危機はもちろん学芸員を配置あるいは補充しない施設もあるというのが時代の趨勢のようです。

しかし、教育はあらゆる人の関心のまとなっているのも事実です。これまでも、人間形成にかかわる面において発生する様々な問題の解決に向けて、学校における「ゆとり教育」や「総合的な学習の時間」の導入、社会教育では生涯学習社会を考慮した学習面での取り組みがなされてきています。

そのような時代における地域の館・園と学芸員の果たす役割について「地域の学習施設としての

博物館と地域の教育者である学芸員」という今回のテーマのもとに下記の3名の講師に課題を提起してもらいます。根本直樹氏(北海道教育大学助教授)には、学習施設としての博物館活動と運営のために必要な博物館経営の概念について利用する側でもある大学人の立場から提起1の講話。提起2では、博物館活動を始めたばかりの施設の現状について石井淳平氏(厚沢部町郷土資料館学芸員)の講話。そして提起3として博物館のあるべき姿を構想しながら設立し、自ら活動するとともに後継者を育成している館長の実務にもとづいた講話を中村斎氏(アイヌ民族博物館館長)からおこなってもらいます。この3名の講師の理念と実践面からの提起を受けて、フォーラム・ディスカッションを行い、いまだ確立されたとは言い難い博物館教育について考えます。

それぞれの館・園活動の原動力になる研修会にしたいと考えておりますので、ふるってご参加していただきたくご案内いたします。

(知内町郷土資料館 学芸員 高橋豊彦)

## 第43回北海道博物館大会 (帯広大会)に参加して

平成16(2004)年度の北海道博物館大会が、7月8日9日の両日、帯広市で開催されました。初日は総会、表彰式、特別報告、特別講演、シンポジウムが行われ、続く二日目は帯広百年記念館・道立帯広美術館・帯広市児童館の見学が行われました。初めての参加ですてきな会場にちょっと気後れしつつ(でも気持ちよく)、有意義な時間をすごすことができました。大会のなかで、とくに印象に残った事柄についてお話ししたいと思います。

シンポジウムでは活発な質疑応答が行われました。

鶴丸俊明さん(札幌学院大学教授)からは大学における学芸員養成課程について、授業の様子や実習についてなどの現状説明がありました。実習の受け入れを期待されている博物館側は、「要望があれば受け入れている」ところが多いようです。ただし現状では実務的なやり取りが不十分であることが浮き彫りにされました。具体的にはたとえば「準備期間について認識の一致を見ていない、あるいはどのくらい前に連絡を取ればよいかかわからない」といったことです。この問題については、最終的に「大学と博物館協会のあいだのやりとりが必要ではないか」という意見が出されました。また、「学生にとってよい状態とは何だろうか」という話し合いもありました。あるいは、「博物館に接してみたい」ために学芸員養成課程を取る学生が多いことを踏まえて、この人たちを博物館サポーターとして育ててはどうかとの意見もあり、もっともだと感じました。

続いて川辺百樹さんと池添久美子さんから、上士幌町ひがし大雪博物館・帯広百年記念館・道立帯広美術館の各館園について、建設準備段階から

現在に至るまでどのような人が館にかかわってどう活動してきたのかを報告されました。なかでも川辺さんの「人づくりではなく、人との関係づくりが大事」というお話が印象的でした。

今後各館園を取り巻く状況がさらに厳しくなること、それにともなって北海道博物館協会も状況が苦しくなっていくであろうことは、参加者・事務局サイドともに実感として感じていらっしゃるようでした。ではいったい何をすれば現状打破できるのだろうかと考えつつも、日々の業務に追われて一日が終わるのが私の日常です。私は、少なからぬ方が同じように感じていらっしゃるのではないかと思います。北海道的博物館協会とは各館園のつながりを密にすることで全体の発展を目指す組織とあります。博物館大会は、金銭上・人員上の物理的な制約を乗り越えてよりよい状態を目指すためには何ができるか?を話し合う、貴重な機会だと思います。今回の総会では、情報収集・提供の具体的方法について質問が出たり、役員間だけでなく一般会員も含めた議論が必要といったやりとりが行われました。今後さらに議論の場を作り、発展させていくことが必要かと思えます。

さらに、今大会では初めてポスターセッションのスペースが用意されました。参加館園は少なめでしたが、このような場が設けられたことはすばらしいことと思います。総会で「もっと規模を大きくして、一般の人や教育関係者、マスコミなどに知らせてはどうか」との提案がなされ、役員会に伝えることが確認されましたので、より前向きに検討されていくことと思います。次の機会にはぜひ多くの館園のポスターが見られることを期待します。

(日高山脈館 学芸員 小野昌子)



石狩・後志・  
空知地区  
News

## 道央ミュージアムネット開設

石狩・後志・空知地区博物館等連絡協議会(通称:道央ブロック)では、会のホームページを立ち上げることとなりました。ホームページの名称は『道央ミュージアムネット』URLはhttp://www.iss-muse.netです。ホームページ上では各地域ごとの加盟館園の紹介を中心に構成しています。今後は各館園から寄せられる展示・イベント情報などの紹介など、情報を充実させていきたいと考えています。開設にあたっては、総会において資金的負担もさることながら、維持管理の方法が課題として挙がりましたが、当面は事務局が管理運営を行うこととし、徐々に加盟館園職員の知識・技術面での協力をいただければと考えています。

また、ホームページと共にメーリングリストの作成を進めており、加盟館園に対する連絡事項のほか、職員間の情報共有(資料探索、運営課題の相談など)に利用して迅速な情報伝達と、連絡協議会のネットワーク活用を図っていく予定です。従来からの懸念材料である、距離的なハンデを解消し、より効果的な連絡・協力体制を整備できるようこの情報技術を利用したいものです。

なお近年、館園の置かれている厳しい状況もあって、基礎情報の変更がめまぐるしく、ホームページ公開当初は、多くの上方修正が必要となることが予想されます。お手数ですが道央ミュージアムネットへの掲載情報の訂正、展示・イベント情報の掲載希望、メーリングリストへの参加につきましてはinfo@iss-muse.netにご連絡をお寄せください。

(北海道開拓の村 学芸員 細川健裕)

道南ブロック  
News

## 七飯町歴史館特別展 「讃岐地方と七飯」開催中

七飯町歴史館では、平成16年度特別展「讃岐地方と七飯」と題して、七飯町の姉妹都市である香川県木田郡三木町の紹介を中心に、10月24日(日)まで開催いたします。

七飯町から約1000km離れた讃岐地方は遙か遠く、過去に関わりがなかったと思われがちです。しかし、振り返ってみれば、全国規模で北海道の開拓を推進する動きが大きくなった明治期に、多くの開拓移民団が北海道へ移住しております。七飯町にも少人数ではありますが、香川県から大沼に移住し、開拓の楫をふるった人たちがいました。その人たちは、「宇喜多農場」を開設し、米・馬鈴薯・燕麥・大豆等を生産、澱粉製造、凍氷切り出しのほか、神社・説教所・尋常小学校などの施設を建てる等、大沼地区の発展に尽力しました。展示で

はこの宇喜多農場に関係するガラス原版写真など約20点を紹介しています。

香川県木田郡三木町とは、現在でも様々な事業を通して交流を深めており、姉妹提携から今年でちょうど5年目を迎えました。この機会に今回の展示では、今まで一般に紹介されなかった姉妹提携までの経緯や、三木町の風土についてパネルで紹介。また、伝統的な祭である獅子舞について、三木町指定文化財の「鰐河神社の獅子頭」(高さ63cm、幅90cm、長さ100cm)や、「獅子舞フェスティバル」の映像を用いて紹介しております。

さらに、歴史については、須恵器・鉄鎌・鉄斧など、七飯町ではあまりみることができない考古資料約20点を紹介しています。



今回の特別展は、多くの町民に自分の町の姉妹都市について理解して頂きたいと考え展示しておりますが、町外の方も、お近くにいらした際には、是非ご覧頂き、指導いただければ幸いです。

(七飯町歴史館 学芸員 山田央)



道北3管内  
News

## 企画展 「エゾリスの暮らし」について

今年度の当博物館の企画展の一つとして、旭川の近郊に位置する嵐山で息するエゾリスの1年間の生活をパネルや、実物大の剥製やクルミの食痕、リス科の仲間の頭骨など立体資料も展示し、「エゾリスの暮らしについて」を開催しました。

嵐山(標高253m)は旭川駅の北西10km、麓を流れるオサラッペ川を挟んで対岸に広がる旭岡の住宅地に接するように位置しています。

嵐山はシナノキ、イタヤカエデ・オヒョウ・キタコブシなど落葉広葉樹からなる自然林で、一帯680%は道設鳥獣保護区に設定されています。

### 《春》

エゾリスの恋の季節。1頭の雌をたくさんの雄で奪い合い、森の中が一気ににぎやかになります。

生まれてくる子供達の巣作りや子育てはすべてお母さんリスの役割です。子どもの成長に伴い数回手頃な大きさの巣穴に移動します。これは、ひと所に長くいると天敵に発見されやすくなることと、巣の内部にダニなどの寄生虫が増えることを

防ぐためと考えられます。

### 《夏》

子リス同志が遊びを通じて独り立ちの準備をしていきます。お母さんリスが最後の巣を用意して、子育てを終える例が多く見られ、お母さんは近くにいますが突然子育てが終了するのです。

### 《秋》

エゾリスは冬眠しませんので、冬期間のえさを確保するためにオニグルミを1個づつ土の中に埋めたり、木の間に隠したりと、忙しく活動します。食べ忘れられた実は芽を出します。森を造る手助けをしているのです。

### 《冬》

エゾリスは朝、数時間しか活動しなくなります。活動時間を短くして、オニグルミを餌として降りしきる雪や寒さに耐えながら、暖かい春を待ちわびます。

このように、嵐山は身近な野生とふれあうことができる貴重な場所です。ぜひ、皆様も旭川に来た折には訪れてみてはいかがでしょうか。エゾリス君がお待ちしています。

(旭川市博物館 坂口茂)

出典:「エゾリスの不思議」南尚貴著 北海道新聞社刊

日胆地区  
News

## アイヌ民族博物館 活動の近況

白老町のポロト湖畔にあるアイヌ民族博物館は、国指定の重要無形文化財である古式舞踊の公開と常設展示「アイヌ文化」を両軸にしている私立の博物館である。

今年の5月7日から、フィンランド北部イナリにあるサーミ民族の博物館シーダにおいて、移動展「アイヌー祈りの世界ー」を同館と共催で開催している。

公開初日には、総勢7名の職員による古式舞踊の演説を行い、前後には、小学校や職業学校など



でムックリの演奏体験を行ったり、サーミ郡役所や議会、放送局などを表敬訪問し、両民族の交流と親交を深めた。この展示は好評で、10月から予定外の古都タンペレでの公開を求められ、来年3月まで延長公開することになっている。

この事業は、アイヌ文化振興・研究推進機構他の補助金を受けて実施した。

一方、博物館では同機構の援助で、北海道ウタリ協会白老支部と共催の「アイヌ語教室」を開催。

また、白老町はアイヌ文化振興と理解普及を目的とした国の事業「イオル構想」で、中核イオルの適地と認定されているが、以来多くの町民の関心が高まってきているので、これからのアイヌ民族博物館の活動の留意点となる。

さっそく、5月から館内の一部を改造し、学習コーナーを設け、来館者の学習用図書配備、文化紹介のビデオ上映、ムックリ練習などいつでも活用できるようにしたほか、常時ボランティアの解説員がいて来館者の質問に答えている。

その他、昨年に引き続き夜間公演を行ったが、日中とは違った雰囲気好評を博した。今は予約制に切り替えて、注文に応じる体制を整えている。(財団法人アイヌ民族博物館 学芸員 木田瑞恵)



## 道東3管内博物館等 連絡協議会

■博物館交流推進会議を下記の内容で開催します。昨年、同じ内容で実施する予定でしたが、地震被害により今年度に行うことになりました。他地域からの参加も歓迎します。

テーマの趣旨は、平成14年、自然再生推進法が成立し、「過去に損なわれた自然環境を取り戻すことを目的として、関係行政機関、関係地方公共団体、地域住民、NPO、専門家等の地域の多様な主体が参加して、自然環境を保全し、再生し、創出し、またはその状態を維持管理すること」が国家戦略となっており、博物館においてもICOM(国際博物館会議)は博物館の事業目的の一つとして自然環境保存を謳っており、道東3管内博物館施設等連絡協議会としても、今後、自然再生を含めた自然環境保存にいかに関わっていくかについて、意見交換を行い、共通認識を深めるものです。

日 時：平成16年10月20・21日

会 場：標茶町茅沼「憩いの家かや沼」

テーマ：自然再生と博物館の役割

日 程：20日12:50受付 13:20開会式 13:40基調講演：「釧路湿原の自然再生事業」環境省自然環境局東北北海道地区自然保護事務所所長渡辺綱男氏・事例発表：川辺百樹(上士幌町ひがし大雪博物館)・坪岡始(標茶町郷土館)・近藤憲久(根室市博物館開設準備室) 18:00懇親会、21日施設見学：コッタロ湿原展望台、サルボ展望台、塘路エコミュージアムセンター、標茶町郷土館

■道東3管内博物館施設等連絡協議会の役員が替わりました。会長：根室市博物館開設準備室、副会長：帯広百年記念館・釧路市立博物館です、よろしくお願ひします。

■道東3管内博物館施設等連絡協議会では、パンフレット「十勝・釧路・根室～博物館等情報マップ 郷土の自然・文化への道草、心のふる里との出会い」(B4カラー裏表)を作成しています。また根室管内展示施設連絡協議会でも「根室管内の展示施設 新しい発見・面白さいっぱい」(B4カラー裏表)を作っています。希望者は連絡ください。

■事務局の根室市博物館開設準備室ですが、根室市郷土資料保存センターと統合し、10月1日より「根室市歴史と自然の資料館」と名称変更します。

(根室市博物館開設準備室 川上 淳)

に約5,000点の資料を収集した。その後帰国し、兵庫県但東町で日本・モンゴル民族博物館の建設構想段階からたずさわった。

金津氏は、博物館が認知度を高め町民との距離を縮めるために出前授業が必要だと言う。また、職員が授業をすることでギャラリートークの上達にもつながっている。他にもモンゴルの画家を呼び寄せたワークショップを行っている。この企画はモンゴルの若手アーティストを応援する意味が含まれており、ワークショップで作成された絵画は博物館に寄贈されている。また、但東町の子供達とモンゴルとの国際交流でも、博物館が中心となって行っている。他にも、一般企業との連携も認知度を高める営業活動として必要であると考え、ボランティアで企業の会員講座の講師もしていると、多岐にわたり博物館の先進的活動について語られた。

質疑応答でも、出前講座でのニーズの高い内容、入館者の町民全体比率、出前講座の出前先など活発に意見が交換された。

最後に特別展「北の遊牧民 モンゴルからシベリアへ」を見学し研修会は終了した。

(紋別市立博物館 学芸員 秋山朋子)



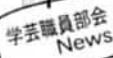
## 網走管内博物館連絡協議会 総括研修報告

平成16年度の網走管内博物館連絡協議会の総括研修会が北網圏北見文化センターの主管で、8月20日、網走市の北海道立北方民族博物館で開催された。会員や関係者など29名が参加し、日本・モンゴル民族博物館館長・金津匡伸氏による講演「国際理解と博物館」と、北方民族博物館で開催中の特別展の見学研修を行った。

講演の金津氏は外務省勤務時、モンゴルの民具とアイヌ民族の民具の関連を感じモンゴル滞在中



講演の金津匡伸氏



## 学芸職員部会 情報・話題・動き

### 平成16年度学芸職員研修会

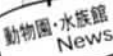
6月24・25日の2日間、芦別市において平成16年度学芸職員研修会が開催されました。テーマは「地域学のススメ・道央の自然と文化」。芦別市黄金水松(道指定文化財-樹高22m、直径6.2m、推定年齢3000年?)の推定年齢を導き出した経緯と測定テクニック、海外の事例などをふんだんに折り込んだ、専修大学北海道短期大学石川幸男教授の基調講演「巨樹の年輪を計る-黄金水松の推定年齢」は、大きな樹木を見つけるとじっとしてられない、と自負する教授らしく内容の豊富なものでした。ちなみに、推定年齢は1700年ということでした。午後からの研修は各分野で活動なさっておられる、4名の方々から事例報告がなされました。道立旭川看護学院斎藤和憲さん「北海道の帰化動物(外来動物-道央地区を概観する)」、余市水産博物館浅野敏昭さん「フゴッペ洞窟・新たな視点から」、星の降る里百年記念館長谷

山隆博さん「芦別市の郷土芸能」、滝川市美術自然史館半井仁さん「子どもたちと博物館」などその地域にある博物館、そこにいる学芸員、専門家の取り組みをうかがうことができました。2日、芦別市のご配慮で市内の指定文化財や施設見学を行ないました。なかでも、行程にはなかった、石炭の露天掘り現場は異風景に出合ったときのようにでした。

### 学芸職員部会25周年記念誌

「出会い・発見・情報発信の拠点 北の博物館」が2年越しの諸準備を経て、この度発行されました。さまざまな「であい」が私たちを支え続けてきました。さまざまな「発見」が私たちの仕事を充実させてきました。そして、それらの「であい」・「発見」をしっかりと検証し「情報発信」する、つまり「伝える」ことが私たちの基本的な姿勢もなっております。本誌は学芸職員部会の会員たちが積み重ねてきたことを、「伝える」最良の記念誌です。一般頒布価格は1500円、お申込みは日高山脈館小野まで。

(学芸職員部会 矢吹俊男)



## 夏休み特別展

円山動物園では例年夏休み期間中に特別展を開催しているが、今年度は「小さな世界の怪物たち-毒たちの怪奇な世界」をテーマに、タランチュラやサソリ、ムカデなど毒のある虫たちを中心に約30点を展示した。当初7月31日から8月18日の開催を予定していたが、大好評のため期間を8月31日まで延長した。

実物の展示にあわせて、職員が力を合わせて製作したメキシカン・レッドニー・タランチュラの巨大模型と、「日本にもいる変な生き物」と題して、扁形動物門渦虫類のコウガイビルヒルの模型を展示した。

展示個体の写真と解説の掲示、さらに一目で毒の強さがわかるようにドクロマークの個数で強さを表した。会場にはノートを置いてお客様に感想を自由に記入していただいた。

普段ほとんど目にする事のないタランチュラやサソリなど大変な人気であったが、職員製作の

苦心作の二つの模型も大好評であった。また飼育員が書いたコメントもわかり易いとか愛情あふれる感じなど好評を博した。展示した虫と解説は当園のHPでご覧いただけるので、是非ご一読願いたい。

期間中1日も欠かさずボランティアの方々交代で会場に常駐して、説明や質問への対応を下された。職員だけでは常時その場に居ての説明は時間的にも厳しく、ご協力がなければ1ヶ月間の展示は無理だったと思う。

当園では現在ガイドボランティアとして動物や施設の解説をお願いしているが、将来的には動物園ボランティアとして、さまざまな得意分野で楽しみながら力を発揮していただけたらと思っている。例えば、教育普及事業を進める上での支援や、園内の植栽やその管理等々。いろいろな経験や知識、技術を持っておられるボランティアの方々動物園の職員が力を合わせて、市民の憩いの場であり、楽しむ場であり、学びの場である動物園の充実を目指して努力していきたいと思う。

(円山動物園 種の保存担当部長 大谷倫子)

## 新館紹介

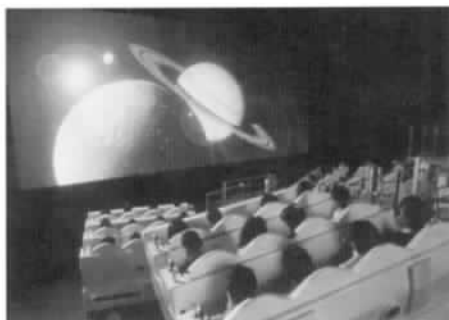
# 余市宇宙記念館 スペース童夢

## ★開館の経緯

余市町出身の毛利衛氏が1992年9月12日打ち上げの米国・NASAスペースシャトル「エンデバー一号」に日本人初搭乗、パイロットスペシャリスト（PS＝搭乗科学技術者）として8日間の宇宙飛行を行い、数々の貴重な実験成果を挙げて無事、地球に帰還しました。

この快挙は余市町民もとより、道民、日本国民に大きな感動をもたらしましたが、余市町では同氏を郷土の誇りとし、町を「宇宙飛行士誕生のまち」と位置づけ、官民一体、町民一丸となって支援事業を展開してまいりました。

この記念事業の一環として（仮称）毛利記念館建設の気運が高まり、平成8年7月より工事に着手、町有地に本体、設備を含め総額約27億円をかけて、平成10年4月25日に当館が開館しました。当館は毛利宇宙飛行士の業績を末永く称え、後世に継承し、21世紀の宇宙時代を担う青少年をはじめ多くの方々に宇宙への関心と宇宙開発の理解を深めていただくことを目的にしており、青少年に対する教育施設としてはもとより、地域観光の拠点「道の駅」の中心施設としても余市町の発展振興に大きく寄与いたしております。



宇宙旅行体験「スペースシップ」



余市宇宙記念館 外観

## ★施設概要

当館は多くの方が漠然と憧れを抱く反面、わかりにくい「宇宙」という分野を、楽しみながら体験することによって興味を喚起することをコンセプトにしております。その為、迫力の宇宙旅行が楽しめる「スペースシップ」や無重力空間での姿勢制御体験「スペースウォーク」、月や火星の重力体験「ジャンピング」、シャトル飛行体験「シャトルフライト」等の映像や音響、バーチャル技術による様々なアトラクションを体験することによって興味を導き、また、宇宙開発の今を伝える「JAXAコーナー」やハッブル宇宙望遠鏡の3/4スケールの模型の中でハッブル映像をご紹介する「ハッブルシアター」、毛利衛氏の生い立ちをご紹介する「毛利ミュージアム」、宇宙情報をパソコンで閲覧する「コミュニケーションスタジオ」などの展示コーナーで、より理解を深める展示構成になっております。また、入館者増対策としまして、2002年はCGドーム映像「デジタルプラネタリウム」、2003年には飛び出す立体映像「3-Dシアター」がオープン、展示設備の充実を図っております。

## ★運営

第三セクター方式（余市町75%出資）による株式会社余市宇宙記念館を設立、当社へ管理運営を委託。併設ショップでは道の駅の特性を活かし特産品や菓子類、宇宙食や宇宙グッズなどを販売、収益の一端を担っている。

所在地：北海道余市郡余市町黒川町6丁目4番地1  
（道の駅：スペース・アップルよいち内）

TEL：0135-21-2200/FAX0135-21-2203

期間：夏期＝4月中旬～10月31日

冬期＝11月1日～4月中旬

料金：夏期＝体験バス／大人1,200円

小人 500円

観覧バス／大人 700円

\*体験バス＝入館＋全施設体験可

\*観覧バス＝入館＋デジタルプラネタリウムのみ利用可（小人は体験バスのみ利用可）。冬期＝大人700円、小人400円（一部クローズコーナー有）

休館日：夏期無休、冬期の月曜日（祝日の場合翌日）、年末年始（12月27日～1月3日）

開館時間：夏期＝9：00～18：00（最終入館16：30）、冬期＝10：00～16：00（最終入館15：00）

（余市宇宙記念館 主任 打矢崇）

# 館・園の主な展覧会と普及事業

(2004年11月～2005年3月)

## 石狩

- 札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)  
10.31～11.14 組み木～小黒三郎の世界～、11.21～12.26 芸術の森クリスマス展Ⅱ、12.11～4.17 収蔵品企画展、1.16～3.27 芸芸館収蔵品展～木のおもちゃワールド～
- 札幌市豊平川さけ科学館 (011-582-7555)  
11.14・21 採卵実習、11.28、12.5・19 サケ皮で靴作り、11月中旬～2月上旬 サケの赤ちゃんの誕生
- 北海道開拓記念館 (011-898-0456)  
11.24～1.16 「建物を造る道具と技術」、2.1～3.27 「北海道神宮史料にみる北海道のあゆみ」
- 北海道開拓の村 (011-898-2692)  
わら細工講習会 11.7「わらじ」、11.14「ぞうり」、12.4・5「しめ縄」、11.16～28 切り絵で描く開拓の村散策、11.20～12.26 絵手紙むらの風景展、1.8～2.27 企画展「食～北国で暮らす知恵と工夫～」、1.29 企画展関連講座「ふるさとの保存食品」、2.26 企画展関連講座「寒地における食の保存～ムロと冷蔵庫～」、3.1～31 写真コンテスト優秀作品展、3.14～18 移動展「道庁道民ホール」
- 北海道立文学館 (011-511-7655)  
10.30～11.28 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～、12.4～26 仙花紙から出発～北海道戦後出版の光芒～、2.26～3.27 批評精神の回廊～風景景次郎から小笠原克へ～
- 北海道立近代美術館 (011-644-6881)  
10.31～11.21 国際美術展2004、11.23～12.2 北海道テキスタイル協会20周年記念展、12.10～1.16 アミューズランド2005、12.10～4.10 コレクション・カフェ～スプーン一杯の想像力とともに、1.26～2.20 ヴィクトル・ユゴーとロマン派展、2.27～3.27 米谷雄平展
- 北海道立三岸好太郎美術館 (011-644-8901)  
11.19～1.23 大衆の心に生きた画家たち～挿絵の黄金時代、1.28～3.27 線描のシンフォニー

## 渡島・檜山

- 北海道立函館美術館 (0138-56-6311)  
11.14～12.23 現代女流書展、1.5～13 行動展、1.18～30 北海道教職員美術展、2.5～3.24 函館美術館コレクション選
- ピリカ旧石器文化館 (01378-3-2477)  
石器づくりセミナー 11.20・12.18 「細石刃をつくる」、1月～3月 随時「石製首飾りをつくる」
- 江差町生涯学習センター郷土資料室 (01395-2-1047)  
10.2～12.26 「昔の暮らしと道具展」、1.15～2.20 「2004年度 新収蔵資料展」

## 後志

- 小樽市青少年科学技術館 (0134-22-0031)  
1.13～15 冬のイベント
- 小川原備記念美術館 (0136-21-4141)  
10.27～11.23 マイコレクション展、11.27～12.27 素描展-3、1.5～3.28 あなたが選ぶ展覧会3

## 空知

- 砂川市郷土資料室 (0125-52-2339)  
1.19～3.14 通信展-電話と郵便-
- 滝川市美術自然史館 (0125-23-0502)  
11.3～9 児童・生徒作品展、11.12～14 雪の二人展「和楽」、11.27～12.29 見つめてみよう 描いてみよう、1.13～23 滝川美術協会展、1.27～2.20 美術自然史館 ワークショップ作品展、3.16～27 國學院短期大学 はる展

## 上川

- 旭川市青少年科学館 (0166-22-4171)  
1.8～9 2005年科学探検広場、1.22～30 さようなら科学館、11.6・13 サイエンスシアター、11.20・27、12.18、1.22・29 チャレンジ教室、12.4・11 サイエンスショー、1.15・16 科学探検広場
- 士別市立博物館・公会堂展示館 (01652-2-3320)  
10.24～12.5 「収蔵品展～絵画・版画・彫刻家」、11.13 お米を炊こう～親子収穫体験～、12.19 クリスマスレクチャー、1.29 しばれランド、2.19 わら細工～親子収穫体験～
- 中川町エコミュージアムセンター (01656-8-5133)  
11.6 そば打ち教室、12.11 飛び出せ中川1、1月中旬か下旬 飛び出せ中川2、2.10～13 森の学校(大人)冬、2.19・3.12 冬の森の観察会、3.29～31 森の学校(ジュニア)冬
- 中原徳二郎記念旭川彫刻美術館 (0166-52-0033)  
12.4～1.30 まちなみ彫刻写真展2004、2.5～終了未定 常設展

- 名寄市北国博物館 (01654-3-2575)  
11月 蔵出し展「紡毛機展」、12月 リース作り講習会、1月 ゆきあかりコンサート、2月 一品展「絵葉書にみる今昔展」、3月 雪とあそぼう、3月中旬 新着資料展
- 富良野市博物館 (0167-42-2407)  
11.21 自然講演会「富良野の活断層を考える」、12.3～1.30 矢田博次絵画展、1.12 冬休み体験講座①土鈴作り体験②縄文人の勾玉作り体験、3.13 歴史講演会、第5回「早春の森を歩く」
- 北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)  
10.30～12.19 小熊秀雄と画家たちの青春展、12.25～3.13 (道北版)北国の名品展、12.23～3.27 動物づくし、3.19～27 純正美術会60周年記念展

## 留萌

- 留萌市海のふるさと館 (0164-43-6677)  
10.31 秋の自然観察、2.20 まとめ会、3.27 巣箱掛け

## 網走

- 斜里町立知床博物館 (01522-3-1256)  
12月～1月 特別展「知床連山の自然史」、11.17 しし座流星群観察会、11.10～14・16～20 堅穴住居模型作成、12.13 ふたご座流星群観察、12.28 博物館開館記念もちつき大会、2.19 知床海と森の学校(歩くスキーで行く海岸林)、2.26 惑星観察会、2.27 宝石みがき、2月 ロビー展「宝石と鉱石展」、3月 ロビー展「はたおり展」、3.5 知床海と森の学校(流水の海の動物観察)
- 博物館網走監獄 (0152-45-2411)  
ワークショップ (10.31 大根干し、11.7 沢庵漬け、11.21 味噌づくり、1.23 糸紡いで織物をつくろう)、12.28 杵と臼で餅つき お供えを飾る、1.1～3 お正月遊び、2.3 節分の豆まき、3.3 お雛祭り
- 美幌農業館・美幌博物館 (01527-2-2160)  
12.12～1.30 寄贈美術資料展、2.6～3.6 冬季作品展
- 上湧別ふるさと館 J R Y (01586-2-3000)  
12.4 しめ縄作り、2.11～3.13 特別展「灯」
- 北網走北見文化センター (0157-23-6700)  
11.13～12.12 北見美術の流れ展、1.15～2.6 美術・博物収蔵品展、3.1～21 結晶する表現者たちVOL.2 小林重子展、3.1～21 美術館コレクション展
- 紋別市立博物館 (01582-3-4236)  
2.5～3.6 第4回 村瀬真治絵画展

## 胆振

- 苫小牧市科学センター (0144-33-9158)  
11.2～30宇宙展(毛利飛行士の部屋)
- 苫小牧市博物館 (0144-35-2550)  
3.12～4.10 小さな動物ランド～動物デザインにみる古代人の心～
- 登別市郷土資料館 (0143-8-1339)  
11.13 フェルトブローチづくり体験、12.4 包丁とぎ体験、12.11 しめ縄づくり体験、1.13・14 冬休み工作教室、1.22 資料館の日「登別市の古代遺跡」、2.19 ひな人形づくり体験、2.26 資料館の日「開拓をささえた人たち」、3.12 和菓子づくり体験
- 室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)  
12月 ふるさと講座干支凧作り、しめ縄作り

## 日高

- 日高山脈館 (01457-6-9033)  
3.13 雪をたのしむ

## 十勝

- おびひろ動物園 (0155-24-2437)  
11.3 動物園フィナーレ、1.28～30 冬の動物園
- 帯広百年記念館 (0155-24-5352)  
11.11～21 陶芸サークル展、1.21～30 第23回郷土美術展、2.11～3.3 ひな人形展、後期陶芸講座修了作品展、2.26～3.5 移動収蔵品展「十勝ゆかりの作家たち」
- 神田日勝記念館 (01566-6-1555)  
11.27・12.28 子供ワークショップ、11.16～1.16 特別展「さえざられた世界」、12.8 日勝祭(生誕祭)、12.19 子供芸術鑑賞ツアー
- 足寄動物化石博物館 (01562-5-9100)  
10月 秋の探鳥会、1月 冬休み体験教室

## 釧路

- 厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)  
11.17、2.16、3.16 同友会厚岸歴史講座、11月下旬 N響メンバーによる室内楽の夕べ、3月下旬 ほしぞら教室
- 釧路市立博物館 (0154-41-5809)  
11.14、12.12 博物館ツアーガイド・英語でチャレンジ、1.14 化石レプリカ教室

## 根室

- 別海町郷土資料館 (01537-5-0802)  
2.11 冬の野鳥観察会「オジロワシ・オオワシを観察しよう」